

がけ侍らず、ことやうなる事、まことにさる事やは侍る、などかはゆるさせ給いとあるまじき事也、よしこと時は玄らず、こよひはよめなどせめさせ給へど、けざようき、もいれでさぶらふに、こと人どもよみ出して、よしあしなどさだめらる、ほどにいさゝかなる御文をかきてたまはせたり、あけて見れば、

もとすけが後といはる、きみしもやこよひのうたにはづれてはをる

とあるを見るに、をかしき事ぞたぐひなきや、いみじく笑へば、何事ぞくとおとゞもの給ふ、

その人の後といはれぬ身なりせばこよひのうたはまづぞよまゝし

つ、む事さぶらはずば、千歌なりとも是よりぞ、出まうでこましとけいじつ、

〔台記〕天養二年正月十四日庚申守三戸懸老子影講老子經、講師友業問者實長上卷重孝能下卷據庚申經夜半已後余賴長○藤原及客皆向正南再拜呪曰彭侯子彭常子命兒子悉入窈冥之中去離我身度唱之雞鳴後就寢

〔玉葉〕建暦二年三月七日又人々議奏内裏可有庚申之由風聞如此事大嘗會以後可宜歟被仰尤可然候由云々、

〔吾妻鏡三十二〕建暦三年元年建保三月十九日庚申今夜御所守庚申有御會而及半夜甲冑隱兵五十餘輩徘徊于和田左衛門尉義盛宿館邊是横山右馬允時兼依來彼金吾之許也御用心之間被停勝會、

〔吾妻鏡三十二〕嘉禎三年三月九日庚申甚雨如拔終日不休止亥刻洪水今夜新御所始有和歌御會被守庚申也題梅花盛久花亭祝言左兵衛督賴長朝臣獻之左京兆足利左典厩相摸三郎入道快雅僧正式部大夫入道源式部大夫佐渡守城太郎波多野次郎朝定等候其座、

〔花園院御記〕文保三年元年正月四日庚申入夜於親王方聊有盃酌事七歲人當七庚申年守庚申